

平成 30 年度

事業報告

社会福祉
法人 十和田市社会福祉協議会

目 次

本会の組織

1	会長・副会長・理事	1
2	監事	1
3	評議員	1
4	職員名簿	2

会務の運営

1	理事会	3
2	評議員会	3
3	監査会	4
4	法人会員募集実行委員会	4
5	社会福祉大会表彰選考委員会	4
6	社会福祉法人連絡会	4

1 環境づくりの推進

(1)	ふれあい相談所事業	5
(2)	広報・啓発事業	5
(3)	生活福祉資金貸付事業	7
(4)	たすけあい資金貸付事業	8
(5)	日常生活用具貸出事業	8
(6)	福祉安心電話サービス事業	9
(7)	日常生活自立支援事業	10
(8)	成年後見事業	10
(9)	福祉サービス苦情解決第三者委員設置事業	11
(10)	フードバンク・サポート事業	11

2 地域づくりの推進

(1)	一人暮らし高齢者ふれあい事業	12
(2)	夏休み子ども寺子屋事業	12
(3)	高齢者健康体力維持支援事業	13
(4)	ふれあい・いきいきサロン事業	13
(5)	地域福祉ほのぼのの交流事業	13
(6)	ゆめ色フェスティバル事業	14
(7)	手話を学ぶ機会の提供事業	15
(8)	十和田市社会福祉大会事業	15
(9)	あんしんネットワーク構成員の集い事業	16
(10)	生活支援体制整備事業	16
(11)	発達障害理解の事業	17

3 人づくりの推進

(1)	福祉教育推進事業	18
(2)	ほんわかハート展事業	18
(3)	中学生ボランティアスクール事業	19
(4)	中高生福祉サミット事業	20
(5)	福祉教育インストラクター養成研修事業	20

(6) お話しボランティア派遣事業	20
(7) ボランティア・市民活動事業	20
(8) 介護支援ボランティア事業	22
(9) 市民福祉体験学習事業	23
4 協力・連携・協働の強化	
(1) 民生委員児童員協議会との連携協働	24
(2) 地域包括支援センターとの連携協働	24
(3) 関係行政との連携協働	24
5 福祉サービス利用者等の個人情報の保護	
6 歳末たすけあい運動	
7 組織基盤の強化	
(1) 事務執行における内部けん制体制	25
(2) 多様な参画による会員組織	25
(3) 役員体制の強化	25
(4) 機能的・効果的な事務局組織	25
(5) 安定的・持続的な財源確保	25
(6) 法令遵守の組織運営と財務規律の強化	26
(7) 地域福祉活動計画の進行管理	26
(8) 経費の縮減と事務処理の効率化	26
(9) 事業評価の実施	26

本 会 の 組 織

平成31年3月31日現在

1 会長・副会長・理事（15名）

会 長	江 渡 恵 美		
副 会 長	小 川 洋 平		
副 会 長	升 澤 博 也		
副 会 長	太 田 代志郎		
常務理事	佐々木 令 子		
理 事	野 月 一 博	中野渡 勇 治	古 館 實
	古 川 あ き	国 分 隆 子	吉 田 壯 一
	立 崎 享 一	竹 達 幸 雄	日野口 敏 章
	大 竹 正 美		

2 監 事（3名）

高 野 洋 三 櫻 田 努 佐 藤 弘 人

3 評 議 員（37名）

立 崎 弘	織 川 貴 司	角 田 ヨシ子	赤 石 政 義
石 田 美津子	張 摩 博 子	佐々木 一 吉	荒 井 容 子
角 濱 京 子	岩 田 秀 子	山 本 孝 司	宮 本 範 道
中野渡 福 美	野 月 誠	櫻 田 一 雅	佐 賀 康 夫
山 田 誠 一	小笠原 豊 重	坂 本 秀 美	漆 畑 貴美男
小 林 千 惠	杉 本 喜和子	白 山 廣 美	下川原 和 男
金 村 金 作	鈴 木 鉄 男	和 田 原	外 山 忠 男
目 時 孝 子	橋 場 妙 子	森 平 直 樹	中河原 めぐみ
小 関 幸 一	織 川 徳 子	小 野 節 子	長 畑 清 二
北 館 祐 子			

4 職員名簿（18名）

【事務局】

事務局長 佐々木 令子（契約担当者 兼 会計責任者）
事務局次長 福田 延幸（出納責任者）

【総務管理係】

係長 田中 伸子（会計職員）
主査 原田 章弘
臨時職員 氣田 望美

【地域福祉係】

係長 中野渡 信哉
主任主査 上川原 王子
主任主査 藤田 智哉
主査 浦田 諭
臨時職員 林崎 美香
パートタイマー 沢目 美佳
パートタイマー 佐藤 千鶴子
日常生活自立支援 小松 眞知子 甲地 久美子 佐々木 早苗
事業生活支援員 外山 久美子 太田 千鶴子 田中 光子
佐藤 千鶴子

【成年後見センター】

所長 佐々木 令子
主幹 浦田 諭
専門員 中野渡 信哉 上川原 王子 藤田 智哉
原田 章弘

【災害ボランティアセンター】

所長 佐々木 令子
主幹 藤田 智哉
コーディネーター 中野渡 信哉 浦田 諭

【苦情解決窓口】

責任者 佐々木 令子
担当者 中野渡 信哉

会 務 の 運 営

1 理 事 会

開催日	会 場	出席者	議 案 等
第1回 5月18日(金)	市民交流プラザ 多目的研修室2	理事11名 監事3名	<p><報告></p> <p>1 会長及び常務理事の業務執行状況</p> <p><決議事項></p> <p>1 平成29年度事業報告並びに収支決算</p> <p>2 平成30年度予算の補正</p> <p>3 たすけあい資金貸付金の一部欠損処分</p> <p>4 臨時職員等取扱規程の改正</p> <p>5 定時評議員会の開催(案)</p>
第2回 6月18日(月)	みなし決議	理事15名 監事3名	<p><決議事項></p> <p>1 副会長の選定</p>
第3回 11月22日(木)	みなし決議	理事15名 監事3名	<p><決議事項></p> <p>1 第2回評議員会の開催(案)</p>
第4回 12月20日(木)	サン・ロイヤル とわだ 2階 会議室	理事12名 監事3名	<p><報告></p> <p>1 会長及び常務理事の業務執行状況</p> <p><決議事項></p> <p>1 平成30年度予算の補正</p> <p>2 定款の改正</p> <p>3 経理規程の改正</p> <p>4 第3回評議員会の開催(案)</p>
第5回 3月27日(水)	市民交流プラザ 多目的研修室2	理事10名 監事3名	<p><決議事項></p> <p>1 平成31年度事業計画並びに収支予算</p> <p>2 平成30年度予算の補正</p> <p>3 給与規程の改正</p> <p>4 臨時職員等取扱規程の改正</p>

2 評 議 員 会

開催日	会 場	出席者	議 案 等
定時評議員会 6月7日(木)	市民交流プラザ 多目的研修室2	評議員29名 監事3名	<p><決議事項></p> <p>1 平成29年度事業報告並びに収支決算</p> <p>2 たすけあい資金貸付金の一部欠損処分</p> <p>3 理事の選任</p>

開催日	会場	出席者	議案等
第2回 12月20日(木)	サン・ロイヤル とわだ 2階 会議室	評議員28名 監事3名	<決議事項> 1 定款の改正
第3回 3月27日(水)	市民交流プラザ 多目的研修室2	評議員30名 監事3名	<決議事項> 1 平成31年度事業計画並びに収支予算 2 平成30年度予算の補正

3 監査会

開催日	会場	監査員	監査内容
5月8日(火)	市民交流プラザ 多目的研修室3	監事3名	平成29年度決算に伴う各会計の経理状況 並びに業務の執行状況
10月31日(水)	市民交流プラザ 多目的研修室1	監事3名	平成30年度上半期の各会計の経理状況
2月26日(火)	市民交流プラザ 多目的研修室1	監事2名	平成30年度下半期の各会計の経理状況

4 法人会員募集実行委員会

開催日	会場	出席者	協議内容
6月29日(金)	市民交流プラザ 多目的研修室2	13名	平成30年度法人会員の募集

5 社会福祉大会表彰選考委員会

開催日	会場	出席者	協議内容
8月20日(月)	市民交流プラザ 多目的研修室3	7名	第14回十和田市社会福祉大会被表彰者の 選考・審査

6 社会福祉法人連絡会

開催日	会場	出席者	協議内容
2月27日(水)	市民交流プラザ 多目的研修室2	14法人 22名	社会福祉法人の社会貢献活動取組状況の情 報交換

1 環境づくりの推進

誰もが安心して福祉サービスを利用できる環境づくりを目指し、総合的な福祉サービスの提供体制を整備し、人にやさしい環境づくりを推進するため、次の事業を実施した。

(1) ふれあい相談所事業

ふれあい相談所を開設し、地域住民の日常生活上のあらゆる相談に助言を行い、心配ごとの改善・解決により福祉の増進を図った。また、相談員の技法向上と情報共有を目的に、県社協主催の相談技法研修会へ相談員2名を派遣した。

※事業状況は、事業報告附属明細書「ふれあい相談所事業実施状況」参照のこと。

(2) 広報・啓発事業

市民に対し、地域福祉推進の意識を啓発するとともに、本会が取り組んでいる活動や実施事業について周知を図った。また、社会福祉に関する情報を提供することを目的に広報紙を年4回発行した。

①広報紙「社協だより」の発行

1	号及び発行日	第114号 平成30年 5月発行
	規 格	A4版カラー刷 6頁
	発行部数	26,700部

〔掲載内容〕

- ◆中高生福祉サミット
- ◆平成30年度社協事業計画・資金収支予算 ・環境づくりの推進 ・地域づくりの推進
・人づくりの推進 ・福祉サービス利用者の個人情報の保護 ・歳末たすけあい運動
・協力・連携・協働の強化 ・組織基盤の強化
- ◆十和田いきいき介護ボランティアポイント事業
- ◆開催行事の紹介 ・福祉教育インストラクター養成研修 ・あんしんネットワーク構成員の集い ・ほのぼの交流事業研修会
- ◆発達障がい理解のための講演会周知
- ◆法人会員のご紹介
- ◆まちかど情報局 救命講習を受講しよう
- ◆《善意の窓》 平成29年12月1日から平成30年3月31日までの金品寄附者

2	号及び発行日	第115号 平成30年 8月発行
	規 格	A4版カラー刷 6頁
	発行部数	26,700部

〔掲載内容〕

- ◆思いやりの気持ちを再確認！ 市民福祉体験学習
- ◆平成29年度事業報告 ◆平成29年度決算報告 ◆会長あいさつ ◆役員紹介
- ◆開催事業の紹介 ・手話奉仕員養成講座 ・手話講習会開催中 ・生活支援体制整備事業 ・福祉体験学習実施中 ・災害ボランティアセンター設置訓練実施
- ◆お知らせ ・福祉の作品コンクール作品募集“ほんわかハート展”参加者募集 ・十和田いきいき介護ボランティアポイント事業
- ◆まちかど情報局 知っていますか「消防団」
- ◆《善意の窓》 平成30年4月1日から平成30年6月30日までの金品寄附者

3	号及び発行日	第116号（共同募金合同特集号） 平成30年10月発行
	規 格	A4版カラー刷 12頁
	発行部数	27,600部

〔掲載内容〕

- ◆第14回十和田市社会福祉大会 記念講演「言葉は心を伝えるか」
- ◆高齢の方、障がいのある方のための事業 ～住民が支え合い、誰もがその人らしく健やかで安心して暮らせるとわだ～
 - ・ほのぼの交流事業 ・お話しボランティア事業 ・生活支援体制整備事業 ・発達障がい理解のための事業 ・日常生活自立支援事業 ・成年後見事業 ・日常生活用具貸出事業 ・福祉安心電話サービス事業 ・ふれあい・いきいきサロン事業
 - ・高齢者健康体力維持支援事業 ・十和田いきいき介護ボランティアポイント事業
 - ・一人暮らし高齢者ふれあい交流事業 ・ゆめ色フェスティバル事業 ・手話講習会・手話奉仕員養成講座事業 ・苦情解決第三者委員会設置事業
- ◆次世代を担う子どもたちのための事業
 - ・ほんわかハート展事業 ・中学生ボランティアスクール事業 ・福祉教育・ボランティア学習事業 ・中高生福祉サミット事業 ・夏休み寺子屋事業
- ◆各種資金の貸付事業
 - ・たすけあい資金貸付事業 ・生活福祉資金貸付事業
- ◆社会を背負う成人のための事業
 - ・十和田市社会福祉大会事業 ・福祉教育インストラクター養成研修事業 ・住民説明会の開催 ・収集ボランティア推進活動事業 ・ボランティア登録・斡旋事業 ・ボランティア団体助成事業 ・ボランティア活動保険加入者促進事業・助成事業 ・ふれあい相談所事業
- ◆フォトアルバム 「夏休み寺子屋開催」「中学生ボランティアスクール開催」
- ◆自分のまちをよくするしくみ。" 赤い羽根共同募金 "
- ◆ありがとうございました平成29年度赤い羽根共同募金の状況

4	号及び発行日	第117号 平成31年 1月発行
	規 格	A4版カラー刷 8頁
	発行部数	27,250部

〔掲載内容〕

- ◆十和田市生活支援体制整備事業 たすけ愛・ささえ愛の地域づくりフォーラム開催
- ◆第14回十和田市社会福祉大会開催 ・各受賞者表彰
- ◆～日頃の練習の成果を発揮～ ゆめ色フェスティバル
- ◆お正月に備え、安心のお手伝い 水道・電気点検企業ボランティア実施
- ◆一人で悩んでいませんか？「ふれあいメール相談」
- ◆進学費用の相談に応じています 生活福祉資金“教育支援資金”のご紹介
- ◆平成30年度福祉の作品コンクール "ほんわかハート展" 入賞者紹介
- ◆まちかど情報局 暖房器具による火災や事故を防ごう！
- ◆《善意の窓》 平成30年7月1日から平成30年11月30日までの金品寄附者

②ホームページによる情報提供

事業の紹介や社協だより、行事案内やボランティア募集などを十和田市社会福祉協議会のホームページに掲載し情報提供を行った。

ホームページ：<http://towada-shakyo.or.jp> E-mail：welfare@towada-shakyo.or.jp

(3) 生活福祉資金貸付事業

低所得者、障がい者、高齢者及び失業者世帯を対象に、資金の貸付と必要な援助指導により、世帯の経済的自立と生活意欲の助長を促し、生活の安定と向上を図ることを目的に民生委員・児童委員及び関係行政機関等の協力を得ながら援護対策に取り組んだ。

※事業状況は、事業報告附属明細書「生活福祉資金貸付事業実施状況」参照のこと。

①償還促進への取り組みと不良債権の調査及び整理

生活福祉資金の貸付原資となるべき償還金について、県社協と共同で償還促進運動を年1回継続実施するとともに、不良債権の整理を行った。

実施日 平成30年9月26日(水)

対象 43件(面接2件)

債務承認書提出 4件

支払猶予申請 0件

②民生委員児童委員協議会との協力体制の強化及び事務指導

償還促進を図るため、民生委員個人毎へ償還状況を毎月送付するとともに、協力体制の強化を図るため、情報共有と事業説明を行った。

③要保護世帯の長期生活支援資金への対応

市福祉事務所からの通知を受け、申請者の不動産鑑定等を1件行った。

④生活福祉資金貸付調査委員会

期 日 平成31年3月15日（金）

会 場 市民交流プラザ

出席者 8名

協議事項 事業実施状況報告

(4) たすけあい資金貸付事業

不時の出費等により最低生活の維持が困難な低所得世帯に対し、応急援護資金の貸付を行った。また、長期間滞納が続く借受人及び連帯保証人宅の夜間督促訪問を行った。

※事業状況は、事業報告附属明細書「たすけあい資金貸付事業実施状況」参照のこと。

①たすけあい資金貸付事業運営委員会の開催

期 日 平成31年3月15日（金）

会 場 市民交流プラザ

出席者 8名

協議事項 支払免除者の協議検討及び事業実施状況報告

②夜間督促（長期滞納者宅）訪問の実施

〔第1回〕

期 日 平成30年6月29日（金）

訪問数 借受人12名 連帯保証人9名

〔第2回〕

期 日 平成31年3月25日（月）

訪問数 借受人11名 連帯保証人7名

(5) 日常生活用具貸出事業

高齢者や障がい者の日常生活の利便を図るため、介護用ベッド、車イス等の貸出を行った。

〔貸出状況〕

() 内の数字は、短期貸出数

年度	介護用ベッド		車 イ ス		シルバーカー	
	貸出数	返却数	貸出数	返却数	貸出数	返却数
平成30年度	21	12	9 (15)	7	2	0
累 計	728 (35)	546	460 (151)	351	10	0

(6) 福祉安心電話サービス事業

自宅の電話機を緊急装置とする福祉安心電話サービス事業は、近隣住民の協力による見守りネットワークを構築し、利用者数が35名、協力員数が87名となった。

①ふれあい電話サービスの実施

ふれあい相談員から福祉安心電話サービス利用者及びふれあい電話サービス希望者へ安否・健康状態等の確認電話、回数全805回を実施した。

〔ふれあい電話の事例〕

・平成30年11月12日 ふれあい相談員から電話

お元気ですか。

— 先日眼科で白内障の手術をしました。日帰りで入院はしなかったのですが、今は静かに過ごしています。—

— 何かあったらいつでもボタンを押してくださいね。—

— いつもありがとうございます。—

②福祉安心電話の緊急通報等着信状況

着信状況は、緊急通報10件、火災通報0件、停電通報7件、相談5件、電池切れ0件、バッテリー切れ0件、故障0件の計22件。このうち協力員等の要請7件、救急車の要請3件、消防車の要請0件という状況である。

〔緊急通報事例〕

・平成31年1月29日 3:27 緊急通報を受信センターが確認。

受信センターが本人へ連絡すると、妻が倒れたので救急車をお願いしたいとの訴えあり。

受信センターから救急車を要請し、病院へ搬送することとなった。診断結果は、インフルエンザ感染であったが、満床のため自宅で静養にすることとなった。

(7) 日常生活自立支援事業

認知症や知的・精神障がい等により判断能力が不十分な方に対し、福祉サービスの利用援助と日常的金銭管理、書類の預かり等を行った。また、基幹的社協として、管内3町（野辺地町・七戸町・東北町）社協、民生委員・児童委員、関係機関・団体及び金融機関等と連携を図りながら、広域的な事業推進を図った。

※事業状況は、事業報告附属明細書「日常生活自立支援事業実施状況」参照のこと。

①「あっぷるハートとわだ」の運営

日常生活自立支援事業は、平成12年6月に施行された社会福祉法において、福祉サービス利用援助事業として位置づけられており、この事業は、管内とする3町を含める広域的な展開となるため「あっぷるハートとわだ」の愛称を用いている。事業の延べ利用者数は、管内で108名（解約者77名）、十和田市では293名（解約者199名）となった。

②支援員の資質向上への取組

直接サービス活動にあたる生活支援員13名を委嘱配置するとともに、資質向上を図るため研修会へ派遣した。

期 日 平成30年6月11日（月）
会 場 青森県総合社会教育センター 2階「第1研修室」
参加者 4名

(8) 成年後見事業

平成17年度に体制を整備した成年後見事業において、これまで受任した人数は延べ17名（終結7名）となっている。また、この後見事務の公正性・透明性を図るため、運営委員会を位置づけし、必要に応じ開催した。

※事業状況は、事業報告附属明細書「成年後見事業実施状況」参照のこと。

①〔第1回運営委員会〕

期 日 平成30年9月18日（火）
会 場 市民交流プラザ
出席者 10名
協議事項 ①新規後見事業利用者について

②〔第2回運営委員会〕

期 日 平成31年1月25日（金）
会 場 市民交流プラザ
出席者 12名
協議事項 ①後見事務報告について ②新規後見事業利用者について

(9) 福祉サービス苦情解決第三者委員設置事業

各種福祉サービスの適正な運営を確保し、利用者等からの苦情を適切に解決するため、苦情解決窓口を設置した。

①福祉サービス利用者等の個人情報の保護

福祉サービス利用者等の個人の権利利益を保護するため、個人情報の管理体制を講じるとともに、職員の個人情報保護に関する意識啓発に努めた。

②第三者委員の設置

第三者委員の人数 5名

第三者委員の構成 監事・評議員・地域代表者・学識経験者

(10) フードバンク・サポート事業

県内食品企業と県社協が協働しているフードバンクシステム（食品ロス（包装破損・期限切れ間近等））を利用し、市内で困窮する方々へ食糧支援を行った。また、このシステムを効果的にサポートするよう本市の団体からの食品提供と購入食品も用いて困窮者支援とした。

〔活用状況〕

企業（食品業者）	提供食品	支援件数
コープフードバンク	レトルトご飯等 計18品目	全57件
フードバンクだいち	精米、野菜等	・たすけあい資金貸付相談 … 33件
立正佼成会	精米60kg	・生活福祉資金相談 … 1件
フードサポート	パックご飯・カップ麺等 購入	・フードバンク相談 … 19件
		・日常生活自立支援事業相談 … 4件

※提供企業の意向により、食品の一部を「夏休み寺子屋事業」にも活用した。

2 地域づくりの推進

共に支え合う地域づくりを目指し、市民一人ひとりが福祉を理解し、みんなで支え合い、誰もが安全・安心に暮らすことができる地域づくりを推進するため、次の事業を実施した。

(1) 一人暮らし高齢者ふれあい事業

民生委員児童委員協議会との連携により、地域で生活する一人暮らし高齢者（70歳以上）を対象に、会食・レクリエーション等を提供し、相互の交流と孤独感の解消を図った。

期 日 平成30年10月16日（水）
会 場 サン・ロイヤルとわだ
参加者 363名

(2) 夏休み子ども寺子屋事業 ～児童の見守りある居場所づくり～

地域のあたたかな見守りの目のある居場所において、児童の健全育成を支援する目的で、地域の集会場を活用し夏休み期間、遊び・学び・伝えの場づくりを行った。

①東小学校区 寺子屋

第1回打合せ会 平成30年5月29日（火） 会 場 東ふれあい会館
第2回打合せ会 平成30年6月 8日（金） 会 場 東ふれあい会館
第3回打合せ会 平成30年7月11日（水） 会 場 東ふれあい会館
夏休み寺子屋 平成30年7月23日（月）～25日（水） / 7月30日（月）
～8月1日（水） / 8月6日（月）～8日（水） 全9日間
会 場 東ふれあい会館
参加者 延べ299名（児童228名 ボランティア71名）

②南小学校区 寺子屋

第1回打合せ会 平成30年6月 4日（月） 会 場 市民文化センター
第2回打合せ会 平成30年6月25日（月） 会 場 市民交流プラザ
第3回打合せ会 平成30年7月18日（水） 会 場 市民交流プラザ
夏休み寺子屋 平成30年7月23日（月）～25日（水） / 7月30日（月）
～8月1日（水） / 8月6日（月）～8日（水） 全9日間
会 場 東小稲会館
参加者 延べ303名（児童229名 ボランティア74名）



(3) 高齢者健康体力維持支援事業

市老人クラブ連合会と連携し、高齢者の健康寿命を延ばすよう、心身の健康・体力維持及び増進を図る目的で、ふれあいのあるスポーツ交流会（軽スポーツ大会・グラウンドゴルフ大会等）を延べ3回開催し、延べ710名の参加となった。



(4) ふれあい・いきいきサロン事業

一人暮らし高齢者等で家に閉じこもりがち、話し相手がいない、寂しいという不安や悩みのある方々に、集会場等の身近な場所で、仲間づくり、出会いづくりの場を提供するサロン事業を実施し、地域住民相互の健康増進、交流を促進した。

〔開催の状況〕

全25地区 / 延べ421回 / 延べ5,744名



〔3年指定地区・団体〕

①西十四番町集いの会（25回/264名）②楽笑会（12回/199名）③北野さくら会（10回/125名）④べっぴん会（12回/199名）⑤高清水さくらサロン（12回/182名）⑥いこいの広場ふきのとう（12回/140名）⑦大和集いの会（24回/185名）⑧いきいきはつらつサロン（25回/298名）

〔単年度指定地区・団体〕

①しらかばいきいき教室（12回/146名）②太田川原ふれあい・いきいきサロン（15回/249名）③みんなで集まる楽しいふれあいデー（20回/248名）④小沢口ふれあい・いきいきサロン（10回/65名）⑤東小稲町内会さわやか教室（12回/378名）⑥相坂上えがおサロン会（12回/285名）⑦下切田いきいきサロン（12回/184名）⑧ひまわりふれあいサロン（23回/333名）⑨カトレアサロン（30回/263名）⑩いきいきサロンオアシス（12回/83名）⑪なごみ会（52回/756名）⑫このゆびと～まれ（12回/374名）⑬日ノ出町熟年会（18回/163名）⑭ふれあい教室（12回/139名）⑮咲楽会（12回/109名）⑯楽らく会（12回/139名）⑰ローズマリークラブ（13回/238名）

(5) 地域福祉ほのぼのの交流事業

高齢者や障がい者等が、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会構築のため、地域生活における見守り機能の充実を図った。事業の実施にあたり、地域福祉活動の主体である住民をほのぼのの交流協力員と位置づけ、訪問等による見守り活動を促進した。

①ほのぼのの交流協力員配置

訪問活動のできる住民ボランティアをほのぼのの交流協力員とし、グループ編成で活

動した。協力員は、本年度末で20名、対象者14世帯。地域住民が互いに見守り支え合う活動をとおして、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉社会の基盤形成を促進した。

②ほのぼの交流協力員研修会開催

研修会により、地域における見守り活動の重要性と活動における大切な視点を再確認した。また、講話により福祉情報の共有を図った。

期 日 平成31年3月19日（火）
会 場 市民交流プラザ
参加者 16名
講 話 高齢者がより安心して暮らせるために
～いつまでも、住み慣れた地域で暮らせるためのヒントなど～



③ボランティア活動促進のための助成

ほのぼの交流協力員へボランティア保険加入料を助成することにより、住民ボランティア活動の一層の促進を図った。

(6) ゆめ色フェスティバル事業

障がいの有無・年齢・性別を問わず市民が一堂に会し、芸能発表やレクリエーション等のふれあいをとおして、障がい者の社会参加の促進と福祉の向上を図ることを目的に実施した。なお、県社協の事業助成金を一部活用した。

①第1回打合せ会

期 日 平成30年6月20日（水）
会 場 市民交流プラザ
出席者 17名（17団体）



②第2回打合せ会

期 日 平成30年10月17日（水）
会 場 市民交流プラザ
出席者 16名（16団体）



③ゆめ色フェスティバル2018（第33回大会）

期 日 平成30年11月10日（土）
会 場 サン・ロイヤルとわだ
参加者 約440名



④第3回打合せ会

期 日 平成30年11月19日（月）
会 場 市民交流プラザ
出席者 15名（14団体）



(7) 手話を学ぶ機会の提供事業

手話の普及と聴覚障がいの理解を深めるため、講習会〔昼の部〕並びに、市の委託による手話奉仕員養成講座〔夜の部〕を、市ろうあ協会との連携により実施した。

①手話講習会〔昼の部〕

期 日 平成30年5月23日(水)～7月25日(水)
毎週水曜日 全10回
会 場 市民交流プラザ
参加者 延べ62名



②手話奉仕員養成講座〔夜の部〕

期 日 平成30年6月6日(水)～10月31日(水)
毎週水曜日 全25回
会 場 市民交流プラザ
参加者 延べ286名



(8) 十和田市社会福祉大会事業

社会福祉関係者及び一般市民の参加を得て、社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰・感謝する式典を行うとともに、社会福祉への理解と関心を高めるため、講演を交えた十和田市社会福祉大会を開催した。

①関係者打合せ会

期 日 平成30年6月11日(月)
会 場 市民交流プラザ 多目的研修室3
内 容 開催内容について
出席者 5名



②大会表彰選考委員会

期 日 平成30年8月20日(月)
会 場 市民交流プラザ 多目的研修室3
内 容 表彰・感謝等の審査
出席者 12名



③第14回十和田市社会福祉大会

期 日 平成30年10月24日(水)
会 場 十和田市民文化センター
参加者 約450名
大会式典



表彰式 社会福祉協議会関係表彰 表彰の部 64名
感謝の部 3名

共同募金委員会関係表彰 個人の部17名・団体の部11団体・町内
会の部77町内会

福祉の作品コンクール最優秀作品の発表及び表彰

最優秀賞作文発表者 中学校の部 田中心雪さん
表彰式 最優秀賞表彰 作文の部2名・ポエムの部2名
書道の部4名・絵画の部3名
写真の部4名

記念講演 言葉は心を伝えるか
講師 タレント 青山良平氏



(9) あんしんネットワーク構成員の集い事業

本会実施の各種福祉サービス事業の円滑な運営及び新しい制度の周知や協力員等関係者間のふれあいと連携強化を図る『あんしんネットワーク構成員の集い』（平成元年度から継続実施）を開催した。なお、安心電話設置者へ対しては、定期的に安否・健康状態等の状況把握のため、ふれあい相談員によるふれあい電話サービスを実施している。

①あんしんネットワーク構成員の集い

期 日 平成31年3月8日（金）
会 場 サン・ロイヤルとわだ
参加者 77名
講 話 「交通安全・特殊詐欺被害防止講話」
講 師 青森県十和田警察署 交通課 係長 川村泰弘氏
生活安全課 警部補 濱田卓也氏
生活安全課 劇団「究」
事業説明 市社協在宅福祉サービスの紹介
アトラクション



(10) 生活支援体制整備事業

地域共生の社会づくりとして、多種多様な生活課題や福祉課題の改善解決と必要な支援ネットワーク構築を目的とする協議体運営を推進した。また、住民主体で課題発見・共有となるよう第1層（本会）2層（在宅介護支援センター）とともに地域座談会と住民の意識啓発・事業理解のための地域フォーラムを開催した。

①推進会議

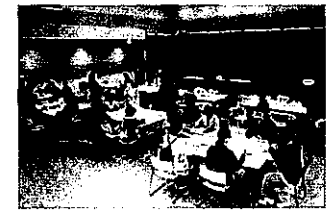
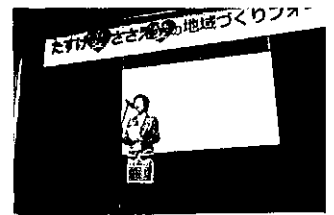
期 日 第1回 平成30年6月18日（月）24名 / 第2回 平成31年3
参加者 月6日（水）17名
会 場 市民交流プラザ 多目的研修室2
内 容 推進会議委員・部会委員委嘱及び正副委員長選任・実施事業計画・事業実施報告及び新年度事業計画

②推進会議部会

期 日 第1回 平成30年7月17日(火) 13名 / 第2回 8月26日(月)
参加者 13名 / 第3回 9月28日(金) 12名 / 第4回 10月29日(月)
10名 / 第5回 11月30日(金) 11名 / 第6回 12月26日
(水) 13名 / 第7回 平成31年1月29日(火) 13名 / 第8回
2月26日(火) 13名 / 第9回 平成31年3月26日(火) 11名
会 場 市民交流プラザ 多目的研修室2
内 容 部会運営・フォーラム開催・地域マップ作成・事業実績報告・情報誌作成
実施報告及び新年度事業計画

③地域づくりフォーラム

期 日 平成30年12月4日(火)
会 場 十和田市民文化センター 生涯学習ホール
参加者 70名
講 話 「みんなで考えよう！おらほのまちの地域づくり」
講 師 花巻市役所 晴山 弥子氏
ワークショップ 「自分のまちのたすけ愛・ささえ愛」



④地域づくり座談会

会 場 北園町内会 延べ35名(3回) / 後野町内会 延べ37名(2回) / あ
参加者 ずま町町内会 延べ34名(3回) / 上樋口町内会 延べ31名(3回) /
吾郷町内会 延べ26名(1回) / 公園街七丁目町内会 延べ54名(3回)
赤伏町内会 延べ45名(3回) / 宇樽部・休屋町内会 16名(3回)

(11) 発達障害理解の事業

発達障がいに対する理解を深め、地域により多くの見守りのある体制を整備することを目的に関係団体等と協働し、発達障がい・知的障害についての講話・体験談と疑似体験の講演会を開催した。



①関係者打合せ会

期 日 平成30年6月7日(木)
会 場 市民交流プラザ 多目的研修室2
参加者 障がいのある子を育む親の会連絡協議会・社会福祉法人 北心会

②発達障がい理解の講演会

期 日 平成30年7月12日(木)
会 場 十和田市民文化センター 生涯学習ホール
参加者 145名
講 師 山形県 花笠ほ一ぶ隊 古澤 薫 氏
富樫 幸子氏 長谷川 薫 氏



3 人づくりの推進

地域で福祉を支える人づくりを目指し、地域福祉活動をより一層推進するため、豊かな知識と経験を持った人材や福祉・ボランティアに関心のある人材を活用し、地域福祉を担う人材の確保に努めるため、次の事業を実施した。

(1) 福祉教育推進事業

地域や企業・学校等からの社会福祉やボランティア活動に関する理解を深めたいという要望に対し、講話や福祉疑似体験をとおり啓蒙啓発を図った。なお、この活動の際は、本会で養成した福祉教育インストラクターが出向き活動している。

〔推進状況〕

小中高校の依頼 33件	活動インストラクター数
受講した児童生徒数 全1,456名	延べ205名

(2) ほんわかハート展事業

小・中・高校生を対象に、社会福祉についての理解と関心を高めることを目的に、『ほんわかハート展』の名称により、作文、絵画、ポエム、写真、書道を募集し、全26校より691点の作品が寄せられた。各部門の最優秀賞受賞者は、第14回十和田市社会福祉大会で表彰を行った。「作文」については、同大会席上で発表し、「絵画」「ポエム」「写真」「書道」については、イオンスーパーセンター十和田店に展示公開した。また、作品集を作成し参加者及び各学校に配付した。

募集期間 平成30年6月～8月下旬

応募総数 691点

入選者 177名



〔作文部門〕

区 分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳 作
小学校低学年の部	0作品	0名	0名	0名	0名
小学校高学年の部	3作品	0名	3名	0名	0名
中 学 校 の 部	38作品	1名	3名	5名	5名
高 等 学 校 の 部	0作品	0名	0名	0名	0名

〔絵画部門〕

区 分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳 作
小学校低学年の部	24作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	19作品	1名	3名	5名	5名
中 学 校 の 部	20作品	1名	3名	5名	5名
高 等 学 校 の 部	0作品	0名	0名	0名	0名

〔ポエム部門〕

区 分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳 作
小学校低学年の部	16作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	26作品	1名	3名	5名	5名
中 学 校 の 部	5作品	1名	1名	3名	0名
高 等 学 校 の 部	0作品	0名	0名	0名	0名

〔写真部門〕

区 分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳 作
小学校低学年の部	26作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	33作品	1名	3名	5名	5名
中 学 校 の 部	1作品	0名	0名	1名	0名
高 等 学 校 の 部	6作品	1名	1名	2名	2名

〔書道部門〕

区 分	応募総数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	佳 作
小学校低学年の部	124作品	1名	3名	5名	5名
小学校高学年の部	324作品	1名	3名	5名	5名
中 学 校 の 部	18作品	1名	3名	5名	5名
高 等 学 校 の 部	8作品	1名	3名	4名	0名

(3) 中学生ボランティアスクール事業

中学生がボランティア活動の体験学習をとおり、人の役に立つ喜び、支え合い助け合い共に生きることの大切さを学ぶ機会となるようボランティアスクールを開催した。

期 日 平成30年7月30日(月)・31日(火)
 会 場 市民交流プラザ、市内施設
 参加者 34名



〔第1日目〕

開校式

ガイダンス(スタッフ・参加者紹介・厳守事項等説明)

みんなで街へ出してみよう!(商店街で買い物をしての障がい疑似体験)

みんなで公共機関を探検してみよう!(車イスを使用し公共機関の工夫点に気付く)

〔第2日目〕

施設でボランティア活動をしてみよう!(施設・保育園等のボランティア体験)

2日間の活動の振り返り・まとめ(参加生が共同して作業)

閉校式(修了証書授与)

(4) 中高生福祉サミット事業

中高生が社会福祉やボランティア活動の大切さについて、自由な意見交換や共同の作業をすることにより、意識の高揚と「思いやりの気持ち、助け合いの気持ち」を育む機会となるよう福祉サミットを開催した。

期 日 平成31年1月11日(金)
会 場 市民交流プラザ、東ふれあい会館
参加者 17名(5中学校/1高校)



(5) 福祉教育インストラクター養成研修事業

福祉教育やボランティアに関心のある市民を対象に、地域や学校に出向き福祉体験学習をサポートする人材育成を目的とし、福祉教育インストラクター養成研修を開催した。なお、これまでに養成したインストラクターは、全177名となった。

期 日 平成31年2月20日(木)
会 場 市民交流プラザ、市内商店街
参加者 14名

(6) お話しボランティア派遣事業

一人暮らし高齢者等で日中、話し相手がなく誰かと話したいという希望登録者 13名に対し、話し相手をするボランティア(ボランティア登録者21名)を延べ75回派遣した。

(7) ボランティア・市民活動事業

ボランティア・市民活動団体の活動の活性化を図るため福祉教育を推進するとともに各種支援やボランティアセンター(災害時ボランティアセンター含む)の運営に努めた。

①器具・機材の貸出

ボランティア活動等の便宜を図るため、器具・機材の貸し出しを行った。

〔貸出状況〕

機材名	数量	機材名	数量
点字器	90器	サロン遊具セット	1セット
アイマスク	75個	テント	4張
白杖	10本		

②ボランティア保険の加入促進

ボランティア活動者、受け入れ者の安心確保につながる保険加入の促進に努めた。

〔保険加入状況〕

ボランティア活動保険	Aプラン … 42件 (920名)
全 53件	Bプラン … 7件 (59名)
全 992名	天災Aプラン… 2件 (11名)
	天災Bプラン… 2件 (2名)
ボランティア行事用保険	A1プラン … 32件 (2,484名)
全 39件	A2プラン … 1件 (12名)
全 2,599名	B1プラン … 5件 (70名)
	B2プラン … 1件 (33名)
ふれあいサロン傷害補償	
全 9件	Aプラン … 8件 (1,575名)
全 1,707名	Bプラン … 1件 (132名)

〔保険給付状況〕

傷害保険 0件

③ボランティア保険加入者への助成

多くのボランティア活動者が、無理なく保険加入できるよう掛け金（保険料）の一部助成を行った。

〔助成状況〕

全711名 (28団体707名 ・ 個人4名)

④ボランティア活動に関する登録斡旋と連絡調整

ボランティア活動の推進を図るため、登録斡旋を促進するとともに、ボランティアを「お願いしたいという依頼」、「活動したいという希望」、それぞれの連絡調整を行った。

〔ボランティアの登録状況〕

・団体 52団体 (登録者数 3,170名) ・個人 108名

〔ボランティアの斡旋状況〕

・依頼件数 93件 (施設等) ・依頼人数 337名
 ・斡旋件数 85件 ・斡旋人数 299名

〔ボランティアの斡旋事例〕

- ・「誠幸園障害者自立支援センター」より、車イス利用者の買物介助の依頼が延べ30件あり、ボランティア登録者と調整し延べ116名を斡旋した。
- ・「白菊保育園、白菊かねざき保育園、第三白菊保育園、第五白菊保育園、みきの保育園、めぐみ保育園、八郷保育園、湖楽園」より、運動会・夏祭りの運営補助の依頼が延べ12件あり、十和田西高校、十和田工業高校等を調整し斡旋した。
- ・「東北電力十和田営業所」より、電気設備点検のボランティア活動をしたいので、対象世帯を紹介して欲しいという依頼があり、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯の計16世帯を紹介した。

・「管工事協会」より、水道点検のボランティア活動をしたいので、対象世帯を紹介して欲しいという依頼があり、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯の計13世帯を紹介した。

⑤ボランティア活動に関する調査研究

ボランティア活動の実態把握のため、市内の「関係団体、個人に対して活動状況調査」を実施した。また、「施設にどんなボランティアが訪問しているか状況調査」を行うとともに、「施設のボランティア受入体制調査」を実施した。なお、この結果を「市内ボランティア団体・個人活動調査表」とし、問い合わせ等に対して最新の情報提供を行った。

⑥ボランティア団体育成のための助成事業の実施

ボランティア団体の育成及び活性化を図るため、本会へボランティア登録する団体・グループへ申請に基づき活動経費の助成を行った。

〔助成状況〕

全14団体・グループ
高齢者や児童、障がい者に関する活動 8団体・グループ 市連合婦人会／精神保健福祉ボランティア駒の会／点訳・朗読奉仕会 傾聴サロンとわだ／スマイルラボ／手話サークルおいらせ／県手話通訳問題研究会 めらしっこの会
子育て支援に関する活動 1団体・グループ 市更生保護女性会
健康づくりに関する活動 5団体・グループ フレンド五月会／街なか歌声いきいきサークル／ポラリスフラ／こころの広場ルピナス／十和田シニアパソコンクラブ

⑦災害救援ボランティアセンターの運営

災害時におけるボランティア活動の円滑かつ迅速な対応を図るため、平成30年5月30日（水）市総合防災訓練で「災害ボランティア受付・派遣活動」訓練を実施した。また、災害救援ボランティアネットワーク機能を活かし、被災地広島県広島市へ平成30年9月6日から12日までの間、救援職員の派遣を行った。

(8) 介護支援ボランティア事業

高齢者がボランティア活動をとoshi、社会参加と介護予防・健康維持を増進するよう活動登録のための研修会を開催した。また、活動した際に付与されるボランティアポイントを地場産商品と交換し、高齢者福祉とボランティア活動の促進を図った。

※事業状況は、事業報告附属明細書「介護支援ボランティア事業実施状況」参照のこと。

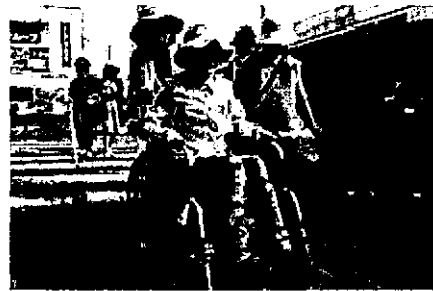
①説明研修会

期 日 第1回 平成30年5月30日(水) 4名 / 第2回 6月27日(水)
参加者 2名 / 第3回 7月27日(金) 2名 / 第4回 8月28日(火)
2名 / 第5回 9月28日(金) 0名 / 第6回 11月28日(水)
1名 / 第7回 12月21日(金) 0名 / 第8回 平成31年1月
28日(月) 0名 / 第9回 2月28日(木) 3名
会 場 市民交流プラザ / 東コミュニティセンター / 南コミュニティセンター
十和田湖公民館

(9) 市民福祉体験学習事業

市民を対象に、ボランティア活動紹介や高齢者・障がい者の疑似体験学習をとおり、社会福祉を見つめること、また、ボランティア活動に広くふれる機会づくりとして実施した。

期 日 平成30年6月21日(月)
会 場 市民交流プラザ
参加者 14名



4 協力・連携・協働の強化

(1) 民生委員児童委員協議会との連携協働

住民が住み慣れた地域で安心して生活できる地域社会づくりの実現を目指し、住民の最も身近な相談者・支援者、地域福祉の推進者である市民生委員児童委員協議会との連携を図り、相互の活動の更なる充実・強化に努めた。

※「ふれあい相談所事業」「一人暮らし高齢者ふれあい事業」参照のこと。

(2) 地域包括支援センターとの連携協働

市地域包括支援センター運営の協力として、本会の提供する在宅福祉サービスや成年後見事業等の利用について協働連携した。なお、地域包括支援センターが窓口となる十和田市成年後見利用支援事業においては、市長申立て3件の後見人へ就任した。

※「成年後見事業」参照のこと。

(3) 関係行政との連携協働

高齢者や障がい者等の虐待、社会的孤立、ひきこもりやニート等の福祉課題や生活課題、ひとり親、子ども等の貧困問題へ対し、市の実施する生活困窮者自立相談支援事業と連携し取り組んだ。さらに市が担う地域福祉計画と各種事業が効果的に機能するよう取り組んだ。

※「たすけあい資金貸付事業」「フードバンク・サポート事業」「生活支援体制整備事業」参照のこと。

5 福祉サービス利用者等の個人情報保護

本会の把握する福祉サービス利用者等の権利利益を保護するため個人情報の有用性に配慮し、情報共有のための個人情報提供や広報活動における慎重かつ厳格な取扱いに努めた。

6 歳末たすけあい運動

歳末たすけあい募金の配分金を、低所得世帯の修学支援となるよう図書券の配付へ活用した。

※事業状況は、事業報告附属明細書「共同募金事業実施状況」参照のこと。

7 組織基盤の強化

社会福祉法人の責務に則り、社会福祉協議会の果たすべき役割に基づく、機能的・効果的な事務執行体制の整備と業務改善に努めた。また、財務規律の厳格化、自主財源確保に努め組織基盤の強化へ取り組んだ。

(1) 事務執行における内部けん制体制

①経理規程を遵守し、現金の入出金体制の厳格化に努めた。また、各種事業ごとの現金取扱の内部けん制マニュアルを全職員が徹底厳守した。

②監事3名により経理監査を年3回実施した。

(2) 多様な参画による会員組織

可能な機会を通じて、地域福祉づくりの重要性を啓蒙し、会員（住民）理解に努めた。
※会費状況は、事業報告附属明細書「各種会費納入状況」参照のこと。

(3) 役員体制の強化

理事・監事・評議員へ、会議及び研修等への参加を呼びかけ役員体制の強化に努めた。また、広報紙社協だよりを送付し、社協事業の更なる理解を図った。

(4) 機能的・効果的な事務局組織

全職員が、人材育成基本方針に掲げる「目指すべき職員像」に努めた。また、職員は、事務局組織の向上を目指し、各種会議及び研修に積極的に参加した。

※状況は、事業報告附属明細書「各種会議開催及び参加状況」参照のこと。

(5) 安定的・持続的な財源確保

長期安定財源として、寄附金等の積立による「福祉基金」の造成を図った。また、認知症高齢者グループホーム外部評価訪問調査、実習生受入等の業務を積極的に実施し、自主財源確保に努めた。

※事業報告附属明細書「各種会費納入状況」「各種寄附状況」「共同募金事業実施状況」参照のこと。

(6) 法令遵守の組織運営と財務規律の強化

公益性の高い社会福祉法人として、全職員が、適正かつ公正な支出管理に努めた。また、運営状況（事業報告、計画・計算書類・定款・役員名簿・報酬規程他）に関して、広報紙社協だよりやホームページを通じて公表した。

(7) 地域福祉活動計画の進行管理

計画した各種事業の課題・方向性を意識し、事業実施に努めた。令和3（平成33）年度までの計画期間中に評価指標に到達するよう、また、新規事業取組や事業廃止においても計画に合致するよう進行管理に努めた。

(8) 経費の節減と事務処理の効率化

事務局内の省エネ・エコ対策推進委員会活動等をとおして、事務処理の効率化を呼びかけ、通信費や消耗品費等の経費節減に努めた。

(9) 事業評価の実施

全事業・業務について、担当者の自己評価後、係間において評価を実施し、問題点を話し合い、必要な見直し改善に努めた。